

継続は力なり、今年も参加したスキーオリエンテーリングマスターズ世界選手権で、ついに銅メダルの獲得！か弱い？女性一人と意気盛んな初老男性二人のレース参戦記と珍道中記。

## 行けば何とかなるさ！

日本からの参加者は3人だけである。大里真理子（W40） 日本の女性マスターズ参加のパイオニア。今年はロシアのライバルがクラスを一つ下げてエントリーしていることをとても気にしている。

高原進（M60）、スキーOマスターズに参加するため、定年後の再勤務先で夏の休暇はとらない。遠征費用も奥様から働いているうちは公認されているらしい。

武石雄市（M65）、62歳でワールドカップに参戦し、今でも世界最高齢選手の記録保持者。国内大会は運営が殆どなのでマスターズ大会参加が常連となり生きがいでもある。



参加国の国旗がはためき、緊張表情の武石雄市。国際大会は身が引き締まる。

外国語会話が不自由な二人の男共は会話の達人な大里さんが頼りだが、仕事の都合で一緒にない。成田でスイスエアに乗込んだときから珍道中が始まっていた。人生生きてるだけで儲けもん！行けば何とかなるさ！

## 二人のスイス10日間日記

### 1月23日(日)

ス・チャンフまで電車を2回乗り換えて3時間弱で到着した。周りは3000m以上のアルプスの山並みが連なっている。その環境に爺爺は興奮を抑え切れない。

昼食後、早速トレーニングコースに出た。モデルイベントコースも解放されていたが、我らの目的はワックスチェック。気温が-8、SWIXのLF6で仕上げたが滑らない。高原は今回ナノワックスオンリー、まあまあだと言う。

少し距離を伸ばして滑ったら、呼吸が苦しい！、練習不足と思ったが、モデルイベントの地図を見てびっくり、我々が立っているところが1800mなのだ。

ワクシングにも苦労した。先ずテーブルがない、持参したスタビライザーを橇と椅子に縛りつけ、アイロンコードは同宿のノルウェーチームから延長コードを借りた。

### 1月24日(月)

モデルイベントコースに入る。雪質はパウダースノーだが、モービル道でスキーのトップを新雪に突っ込むと通常の力ではスキーが操作できない。高原はコントロールを失って転倒している。食欲もなく体調もあまりよくないようだ。

夜8時からのオープニングセレモニーは屋外で地区公会堂前。小学生がプラカードや国旗を持った後に続いて入場。地区民が総出で歓迎してくれた。

挨拶は一人が4ヶ国語で挨拶するので寒くて長いと感じた。

翌日、新聞の写真が日の丸を中心に大きく載っていた。



ス・チャンフは日本の国旗が珍しい完全防寒の大里と武石

### 1月25日(火)

8時の気温が-20、13時の予想気温も-12。ワックスは持参した中で一番低温のCH4をトップに仕上げた。

WMOC 1st、武石はM65クラスのトップスタートで13:35、スタート地区までストリーマーはあるが1キロ以上進んでも前後に誰もいない。間違えたんじゃないかと一度会場まで戻ったが他に道はないし、こんなに寒いんだから皆ぎりぎりに来るんだろうと一人合点して引き返し、2キロほど先の線路のオーバーパスを渡り、国道を横断するとスタートテントが見えた。

### <武石のレース>

- 最初の分岐で遠回りになったが、そのまま進んで難なくチェック、

- の下りコース上にあるコントロールを停止して確認したため、10秒程度ロス、ここで二人の後続に抜かれた



背景にアルプス、会場前の丘に立つ大里真理子、高原進。立っているところが既に1700mの高地である。

しまった。

- 川を渡るのに狭い丸木橋にシュプールが付いているだけ、橋の両側は土手なので端より高くなっている。誰も川に落ちないのが不思議なくらいだ。

- - - は複雑な地形にドイツウヒの森林地帯、モービルトラックのネットが剥き出しの岩を絡みながら曲がりくねって付けられている。後で思ったがここでしっかりレースに集中していて、慎重な中にも時には大胆にスピードを維持したことが好成績になったものと分析しています。

- はオープンクラスに参加している地元の少年に追いつき、先に行くことを勧められたがスタミナも切れてきている頃だったので少年を先にしてペースメーカーとした。

- は約1kmのロングレグ、何も考えず早いと思われるスケートティング技術を組み合わせた。

- Fは200m、最後のスーパースケートティングで50秒、トップのKitty(FIN)には敵わないが決して遅いタイムではない。

スキーは滑った。ワックシングは成功したのだ。

結果が速報で56:12の3位、良いレースが出来たことに気分が爽快となる。



M65で銅メダルと賞品を受ける武石。賞品は美味しいチョコレート



オープンの向こうが深い谷を挟んでドイツウヒの茂る森のトレイン

#### <高原のレース>

寒さで、スタート前にグローブの中の指が冷たかった。スタートしたが、地図上のスタート位置がすぐに解らずしばらく立ち止まっていた。

前半のモービル道の急な下り坂でお尻から転び、そこにあった岩にお尻を打ち、その後大会期間中お尻が痛かった。

この日、JWOCのレースを地元の小学

生が見学に来ていて、予選と決勝のレースの合間にミニOLで雪中の中を長靴で飛び回っていたのが印象に残った。

#### 1月26日(水)

レースは休養日である。夕食後、武石はデジカメの電池を充電していた。コンセントは様々なプラグピンに対応できるように沢山の穴が開いている。充電器のプラグピンに合う穴を探しながら押し込んでいたら、パチン!と停電した。

サーキットブレーカーが落ちたようだが、真っ暗な部屋では探しようがない。大里さんとホテルの従業員に説明しても理解してくれない。ブラックアウトが通じないのだ。漸く判ったらしいと思ったら40Wほどの電球を持ってきた。玉切れと思ったらしい。ノー、ノーと言ったら今度は蛍光管を持ってきた。

従業員はとうとうボスと呼んできた。ボスは、部屋を見てブレーカーが落ちたことを理解し、回復した。その間約10分。サーキットは隣と向かい側4部屋が共通で、ノルウェーのジュニアが皆廊下に集まっていた。結局どの部屋で何が原因かを追究しないままなので犯人に祭り上げられないで済んだ。

#### 1月27日(木)

##### <武石のレース>

相変わらず、気温は低温だ。ワックシングは迷わず前々日と同じものを仕上げた。冷静を装って入るが今日のタイム次第で3位になると思うと何か落ち着かない。

は橋の上、まで広いピステ道を大迂回だ。早くも同時スタートの女性(W35)に抜かれた。地形が凹凸のある複雑な森でモービルトラックが曲がりくねり、- - -と- - -で大きなロスをした。特にではロングワンドルングしたり、でオープンの鉄塔からアタックしてタイムを費やした。

から折り返しだが難しいネットは終わったので最後まであきらめずにフィニッシュした。

タイムが1:12:30で6位、祈るような気持ちで最終結果を待った。

確定した。結局約7分の差をつけて念願の10Fオリジナルの銅メダルを獲得した。皆から祝福を受けて本当にうれしかった。

##### <高原のコメント>

モービル道のネットも良くできていてすばらしいコースでミスもなくうま

くいったと思っていたが、結果は1日目のほうが良かった。

武石さんがM65で3位入賞が今日のメインニュースでとても嬉しかった。

### 1月28日(金)

今日はリレー。勿論3人のオープンクラスの正規レースである。トレインは川を挟んで中間に会場前のパブリックコントロールを通る。アナウンスがないが次走者がタッチレーンに入る準備が出来る。

日本チームはトップが武石、高原、大里の順番。高原のミスで大里が挽回して予想通りのタイムでフィニッシュできた。

### 1月29日(土)

大里さんは、我々を残して一足早く帰国の途に着いた。

#### <大里さんの帰国第一声>

スイスから帰ってきました。武石さんは二日目不調で6位となり、ひやりとしましたが、1日目の貯金がきいて、見事銅メダルです。

表彰式では、遠く日本くんだり(?)からの武石さんに割れんばかりの拍手で、日の丸が舞いました。

高原さんは風邪を引いて体調を崩したのですが、やはり1日目の貯金が利いて、総合10位。

大里は惜しくも(???)メダルならず4位でした。リレーはオープンクラスで見事6位入賞です。

コースは起伏も激しく、ピステが使えず、大変タフなものでしたが、モバイル道が網の目のようによく整備されていて、大変すばらしいテラインでした。

1日目のロングが7.8キロ、270、22ポストと聞いたときは、私の実力では2時間かかると思ったにもかかわらず、武石さんにそそのかされて薄いレーシングウェアを着て出かけてしまいました。(トップでも78分かかってるし、かつ私より厚着だった)

去年のボカッティー(-20)より寒くないよということだったけど、標高1700mもあればやはり午前中は-20、午後でも-10を下回ります。

1時間半を過ぎた頃には手はかじかんでSIの穴になかなかさせず、思考力は停止し、今どのポストを取ったのかさえわからなくなりました。(EMITと違いSIはそれがふべんですねえ。)これはまじにやばいと思ったものの、武石さんの英語力だと捜索隊頼めないだろうなあ、という冷静な(?)判断の元、このまま待っていても寒いだけだし、と、よろよろと自力で帰ってきま

した。

武石さんも私の実力を冷静に判断していたらしく、あの川に落ちたかも(点線の道を下っているところがあったのです)と思って、英語はなせないから自分で探しに行こうと思っていたらしいです。(実際に落ちそうになって、悲鳴を上げ、後ろから来たコースの人々の行列を作ったけど)

2日目、3日目はお天気もよく、いかにもスイスという感じで楽しかったですよ。寒くさえなければ少々道に迷っても大丈夫。

オリエンテーリングが下手&体力のない私は、3日目のリレーがいつもより一番出来が良いので、終わりよければ全てよしという感じでした。(リレーは武石さんの次に早かったと自慢してよいですか(笑) => 高原さん)

それにしてもいつも感心するのは、武石高原両氏の生命力の強さ。現地という言葉が話せる私より、よーっぼど、よくわかっていらっしやる。夫には“オリエンテーリング力でサバイブしているんだよ”と言われましたが、まさにその通り。

田舎のスイスは以外に英語が通じず、片言のドイツ語で私が人にものを尋ねているうちに、解決しちゃうんだから、流石!!



夕暮れ迫る美しい会場に  
ラストランナー 大里のフィニッシュ

来年はオーストリアです。私一人ではこのパワフルなおじ様二人の相手は出来ませんので、皆様と一緒にいかがですか。



グリンデルワルトのスキー場から  
真っ白なアイガーを眺める

### WMOC2005、3人の成績順位

		25日	27日	総合
W40	大里	4位	4位	4位
M60	高原	10位	13位	10位
M65	武石	3位	6位	3位

### 軍のトレーニング施設

今回の会場は、スイス軍のスポーツトレーニング施設を全面的に開放していた。

ご存知のようにスイスは国民皆兵制度で、この時期は3週間ほどの訓練召集期間に当たっていたようだが、この基地に兵隊は施設管理者以外に見当たらなかったため、兵は他の施設に移して開放してくれたものと思う。

感心したのは、ランチを軍のレストランで提供を受けたが、メニューがホテルのメニューより美味しく豊富で量も多かった。

特に、毎食何らかのチョコレートが付いていて、それを貯めているだけでもお土産になったことだ。

ありがとう!スイス!

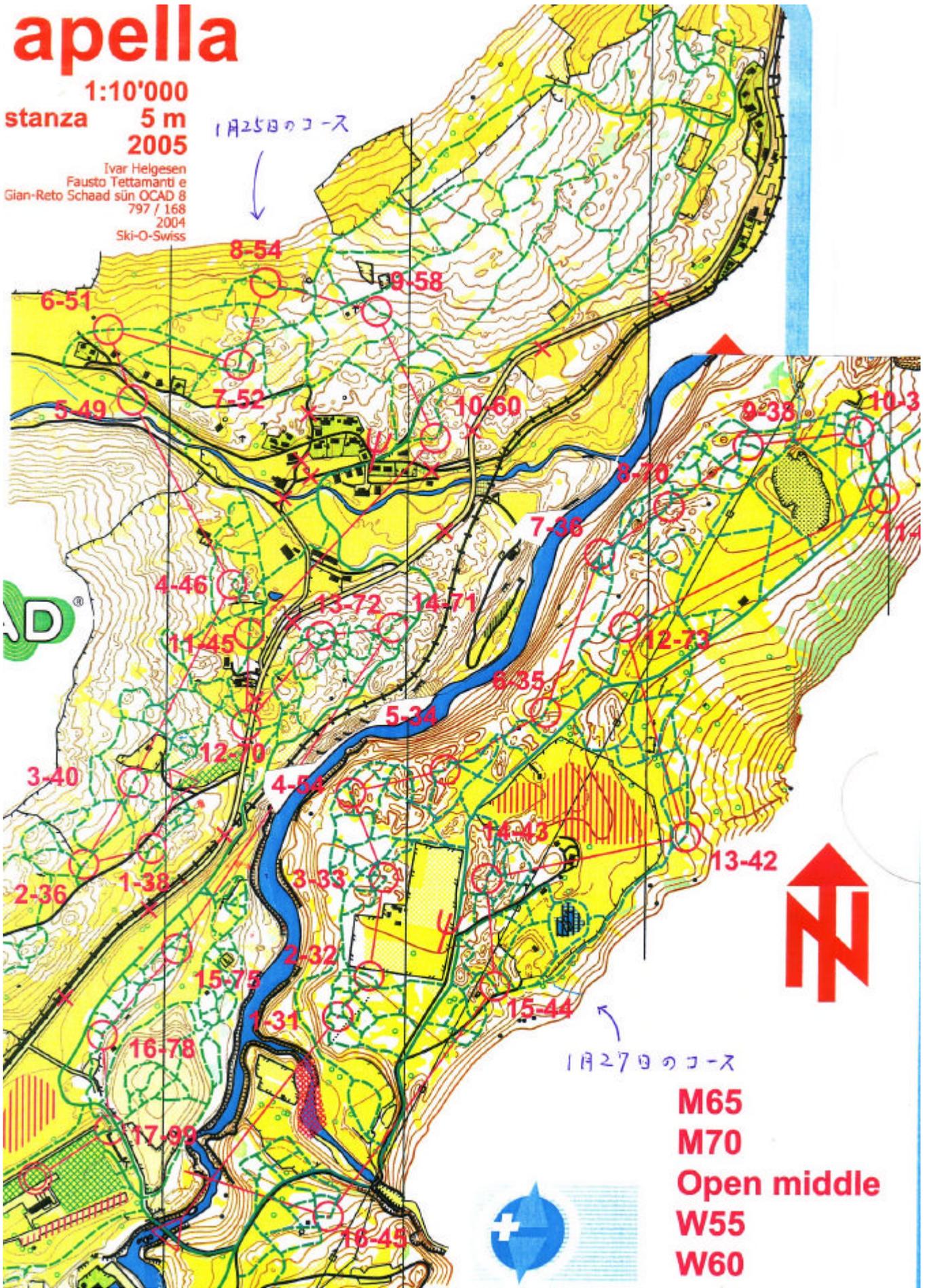
(武石雄市)

# apella

1:10'000  
stanza 5 m  
2005

Ivar Heigesen  
Fausto Tettamanti e  
Gian-Reto Schaad sijn OCAD 8  
797 / 168  
2004  
Ski-O-Swiss

1月25日のコース



- M65
- M70
- Open middle
- W55
- W60